

平成21年度環境技術実証事業

山岳トイレし尿処理技術ワーキンググループ会合（第4回） 議事要旨

| | |
|--------|---|
| 日時 | 平成22年1月27日（水）14:30~16:40 |
| 場所 | 青山生涯学習館レクリエーションホール |
| 出席者 | <p>検討員：相野谷誠志（株）蒼設備設計設備設計部課長） 井田忠夫（神奈川県自然保護センター副技幹） 岡城孝雄（（財）日本環境整備教育センター調査研究グループリーダー） 河村清史（埼玉大学大学院理工学研究科教授） 桜井敏郎（社）神奈川県生活水保全協会理事） 穂苅康治（槍ヶ岳山荘・槍沢ロッジ） 森 武昭（神奈川工科大学副学長）（座長）</p> <p>環境省：総合政策局環境研究技術室（東好宣） 自然環境局国立公園課（勝田孝） 自然環境局自然環境整備担当参事官室（田畑克彦）</p> <p>実証機関：（財）日本環境衛生センター（森田昭、岡崎貴之） 事務局：NPO 法人山のECHO（上幸雄、永原龍典）</p> |
| 議事 | <p>(1) 実証試験の経過報告（非公開） (2) 経年実証試験（予備調査）報告（非公開） (3) メンテナンスマニュアルに関する確認項目の検討について (4) 山岳トイレ導入事例データベースの進捗状況の報告 (5) その他</p> |
| 配付資料 | <p>資料1 実証試験経過報告について（実証機関（財）日本環境衛生センター） 資料2 経年実証試験（予備調査）について 資料3 メンテナンスマニュアルの検討について 資料4 山岳トイレ導入事例データベース進捗状況について 資料5 山岳トイレ技術セミナー概要</p> |
| 公開／非公開 | 議事は公開で行なわれた（議事1, 2を除く） |

(1) 実証試験の経過報告（非公開）

- ・ 実証機関から実証試験の経過について説明があった。

(2) 経年実証試験（予備調査）報告（非公開）

今年度の予備調査を完了し、来年度に本調査を行うこととして、今後の試験を効率良く進められるよう、準備を行うこととした。

(3) メンテナンスマニュアルに関する確認項目の検討について

資料3に基づき、現在実証試験を行っている2技術において、試験期間中に維持管理要領書の記載内容の確認を試行していくこととする。

- ・ 「維持管理要領書」と「メンテナンスマニュアル」と表現されている点について質問があり、「維持管理要領書」で統一していく方針であるとの説明を行った。
- ・ マニュアル自体の指針を作成する可能性については、技術実証にウエイトをおいている実証事業としては、マニュアルの作成指針のようなものを示し、記載を要求することは難しい。実証試験におけるマニュアルへの記載の有無をチェック事項として示し、その内容を公開していくことで、メーカーの自主的な改善を促し、業界の水準を一段階でもあげることができるのではないかとの意見があった。また、報告書で留意点等として指摘することが望ましいとの意見があった。
- ・ これまでの実証試験全体に言えることでもあるが、試験結果報告書に記載した留意事項を反映し改善されることは稀である。指摘に対する改善の確認等を経年実証試験等で見えていくことが期待されるとの意見があった。

(4) 山岳トイレ導入事例データベースの進捗状況の報告

データベースの構造は、本検討を踏まえ次回WGにおいて、再度検討することとする。

- ・ 案に表記されている水量については、初期水であることを明示する必要があるとの指摘があった。
- ・ 処理方式については、過去に検討を行った分類表をベースに作成されることが望ましいとの意見があった。
- ・ 非放流式以外の解説の欄にあるカードリッジ方式と、携帯トイレについては非放流式に該当してしまうため、表現を改善する必要があるとの意見があった。
- ・ 対象データ範囲の説明を、環境省、都道府県だけでなく、実証試験を行ったデータも含まれる表現となるようにする必要があるとの意見があった。また、実証試験を行ったデータについては、優位的に表示されるように工夫した方が良いとの意見があった。
- ・ データの絞り込みを行っていくことができる仕様とすることについて、データベースソフトやCD配布などの検討が過去にされているが、セキュリティーや汎用性の問題から、まずはHP公開という範囲から始めることで良いのではないかとの意見があった。

(5) その他

- ・ 今後の技術セミナーについては、今回、仙台で開催したことで、東北地域の関係者が集まる場をつくることができた点を大切にしていきたいとの意見があった。
- ・ 関西や四国方面でも開催して欲しいとの意見を聞いているとの報告があった。